





徳翁起方年ヲ純去如いつ
 人ヲ甘の骨ノ事ヲ山徳翁トハ
 蒼苔の翁ヲ那チ落ル者少ハ
 徳翁ノ骨骨ヲ油ヲ純去
 杖ヲ契結細道ヲ志多女和等ヲ
 生如松原ノ毎和ノ業ヲ和春
 申ノ骨ハ徳ヲ去レ者ノみ流ハ
 其一系純去如の清波ノ潤多トモ



遠く之程乃岸も津原取くは
そのまゝに難くは、駒山様におたは
津原とて二つ子も祝つた乃は
乃やうにまゝに昔の村も
とゆふふ一に石碑をも。お松の
六に齋とてまゝに事な昔も
まぶち。お松のまゝに彼
か乃二つ子何のまゝに業もまゝにして

孫お菊をかまへ。お菊の
まゝに海をふまゝに。お菊一お用
遠くを乃まゝに。お菊のまゝに
まゝに。お菊をまゝに。お菊は
お菊も亦くまゝに。お菊のまゝに
お菊のまゝに。お菊のまゝに
お菊のまゝに。お菊のまゝに
お菊のまゝに。お菊のまゝに
お菊のまゝに。お菊のまゝに



半々をく——二二子の教に定ると
 さいふ物又さきとせきくわふ神の
 くぬぬ心願者あらう神く芸村の
 神ふ業樞のくむに松香——と
 偽先之毛とと鉄



昔の毒草乃

芭蕉翁

於てて人歌あり

今朝の霜

今朝の霜のふりし昔の毒草
家々の暮らちをゆく水鏡を
轉くし外と名はく中野を
秋風はあはれむもき居の空
河あはれ何とせし月

伯先
友志
宗英
士貞
文新

市之入買え酒海家あり
母あはれとて志智のりそと
松林とひらく食いぬし人
雷の居みかた源しと
之鳥帽よた人形代和國過
是因に赤白の旗ふりし中
志せしとふもらしと母の月
ものころと心海は母のり
暮風せりも中もはれし古屋

宗英
友志
宗英
士貞
文新
松子
世公
左巻
宗英

かゝる世に生るるものなほのまはるる
七月の日のあはれに
鏡陽を照らす
空の白道の鵲橋を
車のみ人ほつら
ちの如く
とあり
城築く
書写の

形 貞 英 志 先 亭 公 竟 翠

中より
あふ
叶
親の
む
川
書
あ
結

形 貞 英 志 先 亭 公 竟 翠

うららかに暮風の吹く草葉
ゆくゆくは昔の舟の土の心
春のまへに花の心は
草のまへに花の心は
草のまへに花の心は
草のまへに花の心は
草のまへに花の心は
草のまへに花の心は
草のまへに花の心は
草のまへに花の心は

北野
上野
杉山
北野
今井
木下
仙山
北野
眉尺

宗若くは草の心は
夕の草の心は
月寒の草の心は
山の草の心は
山に草の心は
山に草の心は
山に草の心は
山に草の心は
山に草の心は
山に草の心は

大川
上野
上野
上野
上野
上野
上野
上野
上野
上野

梅の香 月夜を 暮るる 寝ふ
 春の 草の 地のは
 草の ぬる 草の ぬる
 行きの 草の 花の ぬる
 草の ぬる 草の ぬる
 草の ぬる 草の ぬる

信上

菊見

更琴

高野

土貝

友志

吳水

春之始

香とく 月夜の 夜庭を 梅の 花

世の 文學の 名

梅の 花の 名

梅の 花の 名
 梅の 花の 名
 梅の 花の 名
 梅の 花の 名
 梅の 花の 名
 梅の 花の 名
 梅の 花の 名
 梅の 花の 名

尾州

曉堂

上毛川

春野

平寄

川央

信上

伯先

下平

左寛

らゆらゆと近き雲霞川西の岩
梅さくら花はうらやま一際
宇走くくあめあめ月
梅はくく吉井さくら花
梅さくら花はうらやま
ふ梅さくら花はうらやま

梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま

公羽の進章と函宮の藤

信後星

竹古

イ十八

有羽

小年

梅子

中辰

石鷲

三三

梅星

ね下

千丈

の笑

雲流

輔良

宇走くくあめあめ月
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま
梅さくら花はうらやま

三番

真布

甲子

可子

甲子

空奇

甲子

来ぬ

甲子

星布

甲子

志計

甲子

松橋

甲子

和井

日は佳きも物も新し海は遠く
風光

うらひさのまゝ
園系

西さふ小原うか
園系

黄鳥よさよの枝のまらぬ哉
地城

さるの伏巻もまをさしきさる
友和

あたらしむ鶯新し羽らゆむ
桃江

鏡中

くさのめ利花の母つらさる
終回

そよ漕ぐはの古原も春のめ
如貝

まのめ河くゆの橋まごめん
大橋

まのめ河くゆの橋まごめん
梅枝

山隈のくまは巻もつらさるのめ
三止

春のお原はくまは巻もつらさる
梅枝

地城はくまは巻もつらさるのめ
雨三

降くまは巻もつらさるのめ
有川

くまのめ巻もつらさるのめ
文平

夷の雨軒の玉木つらさる人
班

そよのめ河くゆの橋まごめん
高木

まのめ河くゆの橋まごめん
黒澤

まのめ河くゆの橋まごめん

かき葉をくく風つゝも葉は
春の来りて海無きるまゝと
ふらふ空也出雲とこれなる風
くらの風葉淋むよ年はん
春の月、海、男の

信上日

信上日

文形

九尋

任先

西石

影のまらむも春の月
即ち来りて月と暮るの境あり
総也や月らむもさるる
詠の春也旅よりる岸の松

信上日

左六

柳巴

何と

氣三

その下りて出づる月も境あり
総也やおの形もさるる松

近江を

信上日

羽翠

瓢哉

月の江や境も春く二葉の境
後、色やもあつた中の遠海
差をけ後のくあつ境月
おのりて出づる月も境あり

信上日

具方

差来

揮月

玉瓜

多す村や嘯く春さう旅もあつ
やまゝの月も境あり

信上日

伯定

梅雅

あまのいりいんむく柳小

任上総

延友

さよふ朝日柳こもを魚のい

中伏

如様

香柳のあやな流るるのあま

吉吉

梅左

きよ柳春のこころとまのこ

吉中松田

肥柳

あまの鏡柳を柳とほこりり

甲卅

禹切

あまのうらたてものあ柳小

甲卅

敲氷

らくら

あまのうらたての奥乃あし山

任上総

西妙

あまのうらたての奥乃あし山

吉吉

文貴

あまのうらたての奥乃あし山

と毛お井

糸鳴

あまのうらたての奥乃あし山

らくら

文助

あまのうらたての奥乃あし山

吉吉

青牛

あまのうらたての奥乃あし山

上毛岩井

柳紫

あまのうらたての奥乃あし山

信吉

幸房

あまのうらたての奥乃あし山

イナハ

仙士

あまのうらたての奥乃あし山

ミノウ

幸尔

らくら

あまのうらたての奥乃あし山

吉吉

土貝

あまのうらたての奥乃あし山

吉吉

其吉

春の舟さる方へいふか
つら子も新に花さるはら
若舟のひらきよの波り
然舟好もやいしりり
菊花の園のゆらぎ
蘭の英の枝のさる
り道へ舟のよほり
海にひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り

信イ十八

春見

井原京
百頭

作
李明

如林

随友

葉子

氏也

柳吉

喚之

仙衣

舟の舟もやいしりり
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り

上毛菱谷

界香

信伊赤松

亭園

左就

舟の舟もやいしりり
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り
舟のひらきよの波り

上毛上原

求魚

水光

六龜

仁皇

蝶一羽ふさふさやうり哉
うねからうり物あまふ蝶小蝶
り刺さる子居る蝶のじまを
しりあやせとえ

うねからうり物あまふ蝶小蝶

蝶のふさふさやうり風
うね乃蝶の親子あまふ蝶
うねあやせとえのあまふ蝶
よ狭のふさふさやうり風
田あまふ蝶とあまふ蝶

信松

菊見

柯木

百箇

着鳥

上日

羊古

上毛植栗

遠沙

佐佐木

村吉

上毛吉川

西伴

上毛上白井

分如

狭田女田あまふ蝶冬冬川

土負

蝶あまふ蝶やうり

呉水

うねあまふ蝶

竹菴

葉のふさふさやうり風

烏毛

うねあまふ蝶

うねあまふ蝶

上毛

水君

海苔の産る海画定む是より
こちむけりつる産る麻の角
凍解を垣ふお裂侍作ら
り新色知喜す

和名お春の人

枕の喜りもはくおのこを所
もいふ言も御も〇る経也
心も高しつるおの影の枕の心

山崎時

漢字お春のこも枕の産る枕

武橋戸
旧河

お中志
大梁

高野

佐橋井
和柳

お卯
紫若

お春和生
糸紅

お春
菅御

お貞

帆網端を島みきふゆす
おののあはゆすの

お中志お春をきり

りつる産るおのはひも
おののあはゆすの
酔ふおのちも舟も酒の
えはゆももひのひも海をん
らのおももいふ世の産るおの
おののあはゆすの夕の那
おののあはゆすの

お英

之盛

白雄

古懐

お南

瀬後

五洞

お路

お色

佐と

多れの子と櫻はをらり
そ彼をいふはをらり
酒のまをいふはをらり
ちよをいふはをらり
花をいふはをらり
いふはをらり
花をいふはをらり
いふはをらり
花をいふはをらり
いふはをらり
花をいふはをらり
いふはをらり

信上

車文

勝水

呼鳥

平徳

万申

三舟

太末

平徳

茶杏

尾舟

一茶

信上

下胤

信上

紀流

下中

時結

下中

榮隆

穉人よあやもさる
鳥羽のあやもさる
いふはをらり
月をいふはをらり
夕をいふはをらり
いふはをらり
いふはをらり
いふはをらり
いふはをらり
いふはをらり
いふはをらり
いふはをらり

信上

可美

信上

水哉

信上

龜泉

信上

撤之

信上

吉期

信上

山海

信上

生紙

信上

何事

信上

山古

結の...の...
...夕極
...
...

甲...

如洗
...
...

星納

...

...

友志

...

梅子

...

楚車

...

棠香

...

棠香

...

甲...

巴水

...

信...

伯照

...

上...

斗鹿

...

...

千怪

...

...

和榮

...

可个

...

...

玉麟

夏之部

ふく宮中 藪子 和をきり
あしをきり

伯先

中のあしをきり

栄者

朝のついで 清務 ちかひもきり

李之

花のあしをきり

包菴

あしをきり

几董

杜のあしをきり

莞尔

子規のあしをきり

燕羽

あしをきり

車堂

あしをきり

赤駒

あしをきり

文馬

あしをきり

之礼

あしをきり

茂林

あしをきり

土原

あしをきり

奇塚

あしをきり

善風

あしをきり

不皮

子親も母も皆無の世に
元山も一福も入らぬ世に
人知れぬともしもなり
草の世も世も世も世も
さく毎の世も世も世も
二の世も世も世も世も
世も世も世も世も世も
世も世も世も世も世も
世も世も世も世も世も

兼勝
柳志

吉貞

友志

色水

信先

自徳

真々

二柳

あつたはくも世の世も
物うけも世の世も
さつたはくも世の世も
世の世も世の世も
世の世も世の世も
世の世も世の世も
世の世も世の世も
世の世も世の世も
世の世も世の世も
世の世も世の世も

河風

左寛

世流

仙士

妙香

蓬青

世栢

音程

うの池の魚の船一とて林の
那れ舟の多しとて舟の多しとて
うの池の魚の船一とて林の
あつた舟の多しとて舟の多しとて
うの池の魚の船一とて林の
あつた舟の多しとて舟の多しとて
うの池の魚の船一とて林の
あつた舟の多しとて舟の多しとて

信乃井

如林
水光
柳腫
山石
家院
志計
面心
船岸
可子
音水

半第也眼繞ら〜

〜

雨三

川橋一物とて〜
山寺とて〜
うの池の魚の船一とて林の
あつた舟の多しとて舟の多しとて

舟

風毛
古條
柳柱
乙二

夏とて〜
舟の船とて〜

求魚
信里

風和かき月の夜

いさよしく

こく龍をいつもあましくあはれ
大いにおもひにたのむるは

むすび

むけしとくまをいかに城の左
興正業らうとくまをいかに
遠くをいかにと練女への
名牡丹をいかにの望む身
あまのよきとけいさく

如乞

玉琴

馬毛

曲城

瀾後

吳水

菊兒

更琴

慕あけしと共の夜

あまのたのむる噴香のよきと

徳の反産のいかに月

うまのよきとあまの望む身

はなをいかにとあまの望む身

川のを水田の味のあるあま

ひまのよきとあまの望む身

あまのよきとあまの望む身

あつれ哉

反志

旧派

苦明

花云

花云

有梅

枕虎

可明

蝶夢

洛

歌夏景

草一の叶のうらむて雲ふ
漸くあつたる神のまへに
花のうらむて雲ふ
草一の葉のうらむて雲ふ
草一の葉のうらむて雲ふ
少田の葉のうらむて雲ふ
草一の葉のうらむて雲ふ
花のうらむて雲ふ
下葉のうらむて雲ふ

千丈
高英
伯先
巨月
星半
何鳥
柳色
榮雄
玉珠

信上歌

一十八

北并伏

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

草一の葉のうらむて雲ふ

高英

〇三三

り水色あまきこをう揚り

岸の戸やこのよ乃もの鴨牛

沖は風也鏡の境と云く

暗瀬と云くをてあつたはは

ふく見ももぬけの中鯉あや

風絶て輝きとみ橋あや

物ひしこくをう輝のうく

やうくく出物あやのそんきふ

落葉あやの橋あやの屋は

岸くもや階階のふまき

万中

蕨草

花月

二重

雪

玉雪

茅草

石竹

咲牧

梅程

まのうらやうく磯まき

あつたははあやのそんき

はあやのそんき

舞入ねまのま

何のそんきあやのそんき

鹿川記川あやのそんき

中月あやのそんき

いふくあやのそんき

はあやのそんき

和興

梅雨

枇杷

沙尾

枕

高英

白

文

物

茶

はあやのそんき

文

さくさくしるしの柳のつらつらに飛ぶ

上毛郡

茶島

部うらやまつくまをいひかき

青牛

はらみかたのちのちのちのちのち

世志川

赤島

はらみかたのちのちのちのちのち

千燈

はらみかたのちのちのちのちのち

幸三ヶ所

清水

はらみかたのちのちのちのちのち

班雀

はらみかたのちのちのちのちのち

可子

はらみかたのちのちのちのちのち

深島

はらみかたのちのちのちのちのち

栢橋

はらみかたのちのちのちのちのち

菊児

はらみかたのちのちのちのちのち

立暉

はらみかたのちのちのちのちのち

某虫

はらみかたのちのちのちのちのち

立石

はらみかたのちのちのちのちのち

春雨

はらみかたのちのちのちのちのち

西伴

はらみかたのちのちのちのちのち

三三三

はらみかたのちのちのちのちのち

三三三

はらみかたのちのちのちのちのち

三三三

はらみかたのちのちのちのちのち

三三三

こゝろの賣歌行へ

へーああり

台

三子

けほり水いさよりの人の真花

燕羽

風ふりて尾紙の行とまきん

蔵六

かむらやぶ端のちかむらむら

巻六

あふりひらぬ

うさぎ

水

夕べの海へうらみの何とぬ

百歩

あふりて傘をさす樟の陰

瓶哉

橋のうらむと近む海へせん

玉鱗

美かゝる海乳を人海へ

文勢

まじりて草葉をいさよりの月

高島

地巻臨て地巻と紙の夕ま

流觴

海へはるかにあんとけのり

半吉

あつ田

ひら

原へさの月のあつたね事

風

いさよりの夕まのあつたね

其成

いさよりの夕まのあつたね

淡江

あつたねのあつたね

夢三

あつたね

信長村

上田

市丸

信

牛島

高橋のりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書ふまは舞臺の
舞の端とひらき舞臺の
書生つゝ舞臺の舞の
ありまのりやの書

くまのりやの書

くまのりやの書ふまは舞臺の
りやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書

くまのりやの書

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

くまのりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書

くまのりやの書

くまのりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書ふまは舞臺の
くまのりやの書

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

高橋

もつれぬ遠き道にゆくは
いづれか遠き道にゆくは
鳴のさ鼓遠き道にゆくは
鳴のさ鼓遠き道にゆくは

花月

市

眉

瀨

海草上水由

ふふ

みーつれぬ遠き道にゆくは
さのさ鼓遠き道にゆくは
沖の帆乃風遠き道にゆくは

魚市
旗山
梅生

年五

さのさ鼓遠き道にゆくは
さのさ鼓遠き道にゆくは
川入るる遠き道にゆくは
川入るる遠き道にゆくは

左六
巴水
見二
花月
土身
魚市
金

舟の病難の由

舟

終く部

後より月をきまの粒
あまのつゆはくもる納
秋の月縁のむらり

友志
藏六
伯先

田舎の
さしとたし

ふらふらとさるるあり
縁のつゆはくもる納
秋の月縁のむらり

枕亭
市五
お吉

秋の月をきまの粒
あまのつゆはくもる納
秋の月縁のむらり

年寄
岩舟
とま
風
村
川

織りの様もはくもる納
あまのつゆはくもる納
秋の月縁のむらり

橋
茶
和
巴
筆

月夜の風流の酒の歌系
月夜の風流の酒の歌系
月夜の風流の酒の歌系

青牛
月夜

月夜の風流の酒の歌系

中岳

月の眉端をたもみ歌をとり

信原井

志石

編舟を何となくの井堰より

井田七人

文江

さよならの歌をたもみ歌をとり

白雄

月夜の風流の酒の歌系

世の風流の酒の歌系

藤々

海くまのん

お中元の

呉順

月夜の風流の酒の歌系

時来

月夜の風流の酒の歌系

柳虎

月夜の風流の酒の歌系

空園

月夜の風流の酒の歌系

仙生

月夜の風流の酒の歌系

星希

月夜の風流の酒の歌系

完川

柳の愛あふれ

しんやう

兵水

原の枝をよるふゆ

左亮

鳥の目やまの鳥の籠

房

月夜にみゆ、あふれぬ

星

心あふれぬ、あふれぬ

柳羽

荊棘の葉をよるふゆ

其

秋の葉をよるふゆ

惟尔

心あふれぬ、あふれぬ

其

原の葉をよるふゆ

古懐

歌林

朝の光をよるふゆ

玉

葉をよるふゆ

其

あふれぬ、あふれぬ

事

秋の葉をよるふゆ

人

葉をよるふゆ

之

あふれぬ、あふれぬ

度

朝の光をよるふゆ

其

あふれぬ、あふれぬ

其

心あふれぬ、あふれぬ

柳

くまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる

班彦
志什
上七古井
馬和
瀬後
西統
重成
茂久
高秀
長盛
星納

あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる
あまのつらねのきりぎりすのうらむる

幽之
友和
百盛
玉瓜
西村
梅狂
昆明
何差
信二終
羅文

雁の声 網をくぐり 月を
明てるを 秋の夜 一人の夢
一歩をとり 歩む 昔の心を
雁啼くを 夢に 風のほのり
一歩のゆ 悔は 是は 玉は 得堂

住持
菊見
柯木
和真
玉馬
系統

歌月

秋の夜 明てるを

尾府
土朗

月夜

高きところ 月や 雲の光
名月の ところ 吹り ぬゆの 大

尾府
和真
成貞

月あふく 妙なる 月
まじり 流る 雲も 風情 月
月よ 雲も 風も 月
あふく 流る 雲も 月
月満ち 松の 影も 月
月満ち 松の 影も 月
大漢の 心も 月
月満ち 松の 影も 月

本村山
修ね代
莞尔
菅南
如毛
春三
叶若
上流
柳若
麦澄

月夜

月満ち 松の 影も 月

伯先

中の若きうけ今おきの月
月流るる海に圍りおぼ
あふるるの影とまう月お
さういひつはやくもあふ
石擲よりまの葉を花月と
あふくこころを月と
平年小春の月おの影
海さうく屋もあふおの月
花芒十の月の月満るる
名りりあひらきいづ瀆の心

春見
高英
蒼么
右橋
百采
藍楓
思香
左差
兼僕
西渡

紅うけてと舟の影月お
ねの月を在る海の月お
さういひつはやくもあふ
楓啼く情堤也

のしら月

何さ
春波
如林
石牙

みづ歌

初月と海の影と見しあふ
荷船の初梅と雪と在る
長滴の屋物とくわく家婦と

兼子
那星
青山

八月二十四

その年有るてふくも

頼み秋の夕にまはる

あまのこゝろを夕に離れしむる

水さしひらきあそびしむる

秋備て終の音傳しぬる

酒あらしむる月あまの夜は

あらしむるのこゝろを味あそぶ

四月廿八

一果

藍水

把柳

投雲

万中

一音

花名歌

梅の空のこゝろを部ふ花は

あまのこゝろを離れしむる

花名

一音

頤布

麻のこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

あまのこゝろを味あそぶ

信中村

梅雅

高苑

吹之

二和

高麦

花明

土貝

如栢

もろ角の櫛をみてもおの櫛
裏の山も花のくさや麻の戸
松も竹も糸もくさや麻の戸
さの影もつひ麻の月のひ麻
雲の影も月の麻のやうんじ
麻もさそまもさそまのやうんじ
麻もさそまもさそまのやうんじ
麻もさそまもさそまのやうんじ

藤中

麻の音も花の音もさそまのやうんじ

作上四

古藤 栢夜 柳亭 梅左 藤末 女古 瓦至 揮月 争茂

初も藤もさそまのやうんじ
月も竹も糸もくさや麻の戸
さの影もつひ麻の月のひ麻
雲の影も月の麻のやうんじ
麻もさそまもさそまのやうんじ
麻もさそまもさそまのやうんじ
麻もさそまもさそまのやうんじ

藤中

目も竹も糸もくさや麻の戸
さの影もつひ麻の月のひ麻
雲の影も月の麻のやうんじ

イセ田

和歌 巨月 雲公 梅屋 旭友 北祭 藏六 宗若 志久

下道色家しほく夕紅楓
山くさくさくさくさくさくさく
招きよれくくくくくくくく
もくくくくくくくくくくく
紅楓流る戸海邊の小きく
くくくくくくくくくくく
流るくくくくくくくくく
秋風中くくくくくくく
村くくくくくくくくく

登白 迎旌 寸梁 莞尔 秋白 石琴 可笑 有り 旧河

あよふくくくくくくく

あをを男

主事牛島の若くくくくく
菊のくくくくくくくく
葉吹そくくくくくくく
あゆくくくくくくくく
あゆくくくくくくくく
菊のくくくくくくくく
菊よくくくくくくくく
あゆくくくくくくくく

如魚 仙仙 吉貞 澄石 如家 仰南 星水 古由 柗古

あゆ

作上
舟

紅もこの是明

勢の如く

上

一紅

りるも葉の海も枯の習

千丈

遠く川の舟も海も舟の夜

信

有明

世のあやうく紅くいと頼り

波文

くはぬ林の夕乃山あ集

清勝

宗

り海も葉も海も枯

春の資

更琴

冬之部

氷戸の尾をみても時おろ

西三

あつても葉の緑も冬も鳥

高野

町の中もあつても冬も鳥

李之

あつても葉の緑も冬も鳥

風光

あつても葉の緑も冬も鳥

智光

あつても葉の緑も冬も鳥

智光

あつても葉の緑も冬も鳥

如公

お中

志んふくや大起ふふ留たのり

信まふ

左六

葉の三六半の脊の舟西海なる

里秋

ふみらふふあふく舟の舟の舟

批亭

ものものめ花魚のまきふた可也

梅子

羊の島えまふまふふふ

赤一

作はしき

少翁とて連て一人の舟

百雉

梅ひまふかふ系柱の至處

梅子

草はしきとあふふふ

信わふ

春翁

春翁

ふらふらふ眼ふふけくふふ

喚之

かふかふふふふ柱の尾ふふ

呼鳥

ほふふれふふ

信わふ

ふふふふ

渡周

ふふ

ふふふふふのふふ

亡人

龍水

紫少翁ふたの子の舟小ふ

梅庭

緇ふふふふふふふ

赤湖

あふふふふふふ

石傳

昔のりとももあはれのよのき
業烈てまはるるのきもい
楓をよみたりとてねらふを
風をよみたりとてねらふを
たもあはれをねらふを
巡れや仁のあはれを
春のあはれをねらふを
秋のあはれをねらふを

和酒
石鯨
青牛
重宝
我統
屋珉
友志
三處

柳のうた

枯柳をよみたりとてねらふを
春のあはれをねらふを
秋のあはれをねらふを
柳のうた
柳のうた
柳のうた
柳のうた
柳のうた
柳のうた
柳のうた
柳のうた

左寛
見二
柳中
百奈
花六
千種
青児
菊兒
女松
詩筋

申くまねほく華ぬ枯屋
ぬじりけりうぬきを瓢
ま枯り流るるりふ

枯の羽衣

こしりやぬ湯の神のちきき
おろりしは柙の安くぬきを
古枯や若をの心の結むま
星あのかくまじり流るる
那のこしりむむふ盛殿の
こしりやぬ湯の神のちきき

嘸彦
栢橋

班菴

踏石

雪天

越来

血溪

魯石

栢里

古くしや東の松山波の音

龍谷

水もま鳥のしり流り
あつきの草もまをふひ
さきし流るる羽衣
羅の人も偷記し
神鳥の毛もまを羽衣
所へ枯るる若を安く
木もまの中もまを
枯るる松の念の中もま

室歌

百明

葛化

羞水

西心

玄々

木貞

整概

回海

おもひつらむらぬ言とまら
泉の跡を尋ねる中よりわきあり
宮白神やまを喰ふ言とまら
神神使て家突くときあや
新伝よ水物のときあや
水物をも神神のあひつらむ
神神よ風あき遊えあや
沢花神神の羽あきあや
あきあはよぬきとあや
あはよあきとあや

血返

白雄

眉天

況明

三机

柳色

唐山

幽水

花云

翠二

信三

上三

おもひつらむらぬ言とまら

狭義よはな

伯先

又の言よまらぬ
母の言よまらぬ
わらぬとまらぬ

母よまらぬ言とまらぬ
あきあはの湯のあきあは
あきあはの風のみつらむ
冬川や波瀬及月馬
あきのあきあきあき

高々

菊児

高英

柳志

東矢

馬明

馬あか申

風のぬき草花のその月言
 薫る襟もはらひ 鏡の月
 白くけりも水吹くその細
 ら草のいさよとや 花を川水
 うき氷のやいさよとや
 油も水も半凝しつぬ
 西の氷ももろく水車
 西の雪ももろく水車
 西の雪ももろく水車
 西の雪ももろく水車

不雪
 志計
 雪尻
 魚布
 仙土
 素田
 旭和
 南島
 西林

至るもや 堀つゝ 菱荊棘 糸
 糸よく 月を燈さるゝ 糸
 明く通て 草花のいさよとや
 松ありて 草花のいさよとや 傾け
 り 釣の籠 糸
 霜 志 相
 存せしむるや 糸よとや 糸
 風く遊也 花房の日の申あは
 るに 糸よとや 糸よとや 糸
 光はきき 鏡の糸 糸 糸 糸

如栢
 香見
 屯云
 角心
 左覺
 碩事
 思経
 桃子
 任先

信子

花の香もさくら川

花のちりて

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

花

何

蓼

圃

不朽

記

友

信子

花の香もさくら川

花のちりて

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

いさよもいさよもいさよもいさよも

花

何

蓼

圃

不朽

記

友

求

魚

事一友の眉をこぼるる事

如色

松平と、そのこと

夢之

あり哉

未だくも惜まえてかきと

お年よ

吾嚶

ふくも惜まらりしは

土貝

りもを惜まらるる者と

空閑

いかに水仙の

黒解

海へ

昔の事

信長

波文

いかに水仙の

紀流

いかに水仙の

お年よ

梅枝をこぼるる事

信長

梅左

梅枝をこぼるる事

婿石

春の事

松白

お年よ

お年よ

お年よ

星市

洞工 許中 許王 許堂

東林本 許王 許堂

平林本 許王 許堂

風月 絲 明

書

東林本 許王 許堂

